

第1学年 図画工作科学習指導案

令和7年〇月〇日(〇) 第〇校時

小学校 1年 〇名

指導者 〇〇 〇〇

1 題材名 「スタンプぺったん」

<A 表現 (1)ア(2)ア B鑑賞(1)ア 共通事項(1)アイ>

2 題材設定の理由

本学級の児童は、元気で明るく、図画工作科の活動にも意欲的に取り組んでいる。図画工作科「ならべてみつけて」の学習では、様々な材料をならべたり、つなげたり、積んだりすることによって、形や色を意識し、自分なりのイメージをもって製作活動を楽しむことができた。また、友達の活動を見て表現のよさを自分の造形活動に取り入れる児童も増えた。しかし、自分のつくりたいイメージを主体的に言葉で伝えられる児童はまだ少なく、写真の撮り方を工夫して表現したり、教師が問いかけを重ねることによってだんだん言葉にしたりしていた。本題材では、児童が材料などに進んで働きかけ、自分の感覚や行為を通して捉えた形や色などからイメージをもち、自分の思いを表現する活動を行う。友達と一緒に工夫して材料の形を写したり重ねたりしながら自分なりのイメージを広げさせ、つくる楽しさを味わわせたい。また、つくったものの面白さや楽しさ、よさ、工夫を言葉や文字で主体的に伝えようとする力を養いたいと考え、本主題を設定した。

本題材は、身の回りにある材料を使ったスタンプ遊びを楽しむ造形遊びである。スタンプで表現される形や色から写し方を工夫したり、面白い形を見付けたりする。この時期の子どもたちは身の回りにあるものについての興味が広がってくる。いろいろな材料を使ったスタンプ遊びをすることで、自らの働きかけによって生まれた形や色から新たな刺激を受け、さらにやってみたいことを思い付き、見方や感じ方を広げていくことができる。低学年の児童は、よく身近にあるいろいろな材料を並べたり、何かに見立てて遊んだりしている。そこには、材料に進んで働きかけて何度も試しつつくりながら考え、自分の思いの実現を図ろうとする姿がある。単一の材料であっても、着目の仕方によって様々なイメージが広がり、工夫が生まれることを実感できるのである。

指導に当たっては、児童が「いいな」と感じた形や色をタブレットで撮影するようにし、どんなところによさを感じたのか、どんなイメージをもったのかを共有する。場の設定については、製作活動は教室の広い床とし、白い紙を貼ることで色に着目しながら活動できるようにする。活動する中で同じ材料を写した形をつなげたり、大きさや色を徐々に変えることでリズムをつくったりすることにも期待したい。本題材は、造形遊びであるので、児童が材料に触れ、発想をふくらませる過程で具体的なイメージをもち活動することもあれば、活動するときに具体的なものを形づくることを目指すことも想定される。「丸がつながってすごくみたい。」「プリンカップを使ってお花の形を写したよ。」など、児童が活動の過程で見つけた形や色に対する思いにしっかり寄り添い、共感的に価値付けていきたい。活動の初期には教師から具体物をイメージするような投げ掛けはせず、写したり重ねたりする中から、徐々に具体的なイメージを広げていく児童を見取って称賛する。つくりながら試し、試しながらつくることで、自分なりに「つくりたい」イメージが明確になり、友達と対話しながらつくる喜びを味わうことができると考える。

また、鑑賞活動は、児童が「いいな」と感じた形や色の部分をタブレットで焦点化して記録できるようにする。焦点化することで、つくったもののよさや工夫を具体的な言葉で表現できるように支援したい。また、鑑賞活動に集中して取り組む時間を設定することにより、その後の製作意図に成長が見られるのではないかと考える。教師や友達との対話を通して、具体的なイメージが徐々に膨らみ、造形活動を楽しむことができるようにしたい。

3 題材の目標

- ・自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付き、カップや毛糸等身近な材料を写すことを通して、写った形や色などの特徴に気付き、手や体全体の感覚を働かせて活動を工夫する。 (知識及び技能)
- ・カップや毛糸等身近な材料を写してできる形や色を基に、自分のイメージをもちながら、造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かしながらどのように活動するか考える。 (思考力、判断力、表現力等)
- ・つくったものの造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。 (鑑賞)
- ・つくりだす喜びを味わい楽しく表現し、鑑賞する学習活動に楽しく取り組んでいる。 (学びに向かう力、人間性等)

4 題材の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付き、わりばしや紙コップなどの身近な材料を使って表すことに十分に慣れると共に、写したり重ねたりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくっている。	カップや毛糸など身近な材料を写してできる形や色を基に、自分のイメージをもちながら、造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かしながらどのように活動するか考えている。 つくったものの造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	つくり出す喜びを味わい、楽しく表現し、鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。

5 指導と評価の計画(全2時間 本時2/2)

時間	学習活動	評価の観点	評価方法等
1 (本時)	カップや毛糸など身近な材料を写すことを通して、写った形や色などの面白さに気付き、それを基にイメージを広げて活動することを楽しむ。	技◎ 態○	自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付き、身近な材料に十分に慣れるとともに、写したり重ねたりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくっている。 つくりだす喜びを味わい楽しく表現し、鑑賞する学習活動に楽しく取り組もうとしている。 (観察・発言・写真・つくりつつあるもの)
2	自分や友達のを作品を鑑賞し合う活動を通して、様々な形や色の面白さに気付いて表現し、それを基にイメージを広げ、活動をさらに工夫する。	思(発)◎ 思(鑑)◎	形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちのつくったものや身近な材料などの造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げ、どのように活動するかについて考えている。 (観察・発言・写真・つくりつつあるもの)

○題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かす。

◎題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し記録に残す。

6 本時(1/2時間)

(1)目標

カップや毛糸など身近な材料の形を自分で選んだ色で写したり重ねたりすることを通して、様々な形や色の面白さに気付き、自分のイメージをもって、手や体全体の感覚を働かせて、活動を工夫してつくっている。

(2)展開

	学習活動	指導上の留意事項	具体的評価規準(評価方法)
導入 5分	1 材料と出会い、活動のめあてや内容を知り、見通しをもつ。	・教師作成の動画を見せて、身近な材料と絵の具を組み合わせると、どんなことができるのか考えられるようにする。	
いろいろな うつしかたを ためして、たのしい みえかたを みつけよう。			
展開 35分	2 感覚や行為を通して、友達と対話しながら、材料をどのように写すのか試す。 3 作品のよさや工夫、製作時の気付きをまとめる。	・写したり重ねたりしたときの気付きに共感的に寄り添う。 ・写した形や色から楽しい・面白い見え方を見付け、タブレットで記録し、安心して次の学習活動に移れるよう促す。 ・上から斜めから等、視点を変えて造形的な面白さやよさに気付くようにする。 ・自分がつくったもののよさや工夫、製作時の気付きなどを言葉にすることで、自分や友達のつくったものと向き合えるようにする。 ・言葉にするときの話型を提示し、形や色、イメージといったキーワードに触れながら、つくったもののよさや工夫を発言しやすくする。	技 自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付き、身近な材料に十分になれるとともに、写したり重ねたりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくっている。 (観察・発言・写真・つくりつつあるもの)
振り返り 5分	4 本時の学習を振り返り、次時への学習意欲をもつ。	・本時で楽しかったことや次にやってみたいことを発表し、次時への学習意欲をもつ。	

(3)評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	自分の感覚や行為を通して材料と積極的に関わりながら、その形や色、大きさなどの特徴を感じ取り、独自の写し方や重ね方を発見し、どのように活動するかを主体的に考え、工夫してつくっている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	友達の活動を見ることで試したい活動を思いつくよう促したり、活動の工夫を教師が言語化したりしながら、工夫して活動できるよう促す。